

ドナー適格性判定基準（BMH／PBSCH）（2023/3/30）新旧対照表

【臨床的な問題】 P 1

	現行	BMH	PBSCH	変更	BMH	PBSCH
服薬中	<p>服薬内容がいわゆる栄養剤、ビタミン剤等市販の保健薬であり、骨髄採取時に服薬中止(1ヵ月前の中止が望ましいが、使用したい場合には、1週間前までに中止)が可能なものは可</p> <p>■対象薬物</p> <p>①ビタミン剤 ただし、ビタミン薬による貧血治療中は除く</p> <p>②ミネラル剤 鉄剤による貧血治療中は除く</p> <p>③漢方薬 服薬目的(肝疾患、感冒、喘息治療など)に注意</p> <p>④胃腸薬 感冒性下痢症状がある場合は除く</p> <p>⑤局所投与の薬物(点鼻、点眼、外用)</p>	A	A	<p>服薬内容がいわゆる栄養剤、ビタミン剤等市販の保健薬であり、骨髄採取時に服薬中止(1ヵ月前の中止が望ましいが、使用したい場合には、1週間前までに中止)が可能なものは可</p> <p>■対象薬物</p> <p>①ビタミン剤 ただし、ビタミン薬による貧血治療中は除く</p> <p>②ミネラル剤 鉄剤による貧血治療中は除く</p> <p>③漢方薬 治療目的(肝疾患、喘息治療など)は除く</p> <p>④胃腸薬 感冒性下痢症状がある場合は除く</p> <p>⑤局所投与の薬物(点鼻、点眼、外用)</p>	A	A

【呼吸器疾患】 P 4

	現行	BMH	PBSCH	変更	BMH	PBSCH
気管支喘息 (咳喘息含む)	<p>予防的に用いられる吸入薬(吸入ステロイド、インターール等)や抗アレルギー薬の服薬だけで発作や症状がなくても不可</p>	C	C	<p><u>過去1年以内に、感冒症状等で一時的に使用した場合を除き、継続的かつ予防的に用いられる吸入薬(吸入ステロイド、インターール等)や抗アレルギー薬の服薬があった場合は、発作や症状がなくても不可</u></p>	C	C
	<p>【新規】</p>			<p>非ステロイド性抗炎症薬による喘息発作(アスピリン喘息、解熱鎮痛薬喘息、アスピリン不耐喘息、NSAIDs 過敏喘息)の診断を受けたことがある場合、不可</p>	D	D

【感染症、性病、寄生虫疾患】 P 3 8

	現行	BMH	PBSCH	変更	BMH	PBSCH
シャ ー ガ ス 病	以下、(1)～(3)に該当する場合は不可 ※55歳まで保留 (1)中南米諸国で生まれた、又は育った。 (2)母親又は母方の祖母が中南米諸国で生まれ た、又は育った。 (3)上記(1)に該当しない方で、中南米諸国に通 算 4 週間以上滞在した。	C	C	以下、(1)～(3)に該当する場合は不可 ※55歳まで保留 (1)中南米諸国で生まれた、又は育った。 (2)母親又は母方の祖母が、中南米諸国で生ま れた、又は育った。 (3)上記(1)に該当しない方で、中南米諸国に <u>連続して 4 週間以上滞在、又は居住したことが ある。</u>	C	C

【リウマチ性疾患、アレルギー性疾患】 P 4 5

	現行	BMH	PBSCH	変更	BMH	PBSCH
ア レ ル ギ ー	過去に薬物アレルギー（ペニシリン等）、食物ア レルギーにより、アナフィラキシーショックの ような重篤な症状（呼吸困難 <u>及び</u> 意識障害）を 起こしたことがある人は不可	D	D	過去に薬物アレルギー（ペニシリン等）、食物ア レルギーにより、アナフィラキシーショックの ような重篤な症状（呼吸困難 <u>や</u> 意識障害）を起 こしたことがある人は不可	D	D